



運動部員らが救急蘇生法を学んだ講習
 美浜町奥田の日本福祉大付属高で

運動部員 万一に備え 日福大付属高 AEDの講習

日本福祉大付属高（美浜町奥田）の運動部員ら約250人が11日、同校体育館で、自動体外式除細動器（AED）を使った救急蘇生法を学んだ。フロア全体を使った初の大規模講習で、万一の事態に備えた。

運動系の全部員と動きが激しい和太鼓部の部員が参加。豊橋ハートセンター（豊橋市）の杉浦武治さんから人形を使った心臓マッサージや人工呼吸、AEDの使い方を学んだ。

杉浦さんは、心肺蘇生の基本である心臓マッサージの重要性を強調。「救急蘇生の最大の目的は社会復帰の可能性を高めること。AEDに頼りすぎず、本人が嫌がるまでマッサージを続けて」と話した。

バスケットボール部主将で3年の本田成臣さん（17）は「AEDの手順を復習できてよかった」と話した。同校は2005年にAED1台を購入し職員室に置いている。（宇井章人）